つくる

はと時計　12月号

松蔭中高図書館
2023年12月8日発行
library@shoin-jhs.ac.jp　担当 福永

日本国語大辞典で「つくる」を引くと、まず最初に「新しく創造する」とあります。そんなに大げさではなくても、自分の手でちょっとした何か（お菓子だったり、編み物だったり）をつくるのは、楽しいですね。ということで、今月の特集は「つくる」です。

本をつくる

『手づくり製本の本　こだわりの作家もの+作り方』
嶋崎千秋著　誠文堂新光社　2012
紙をとじ、表紙などをつけて本にする製本家と、紙にまつわる仕事に携わっているクリエーターがつくる「本」。それぞれのものづくりへの思いや、手づくりの魅力に触れることができます。

『はじめての和装本　身近な道具で作れます』
府川次男著　文化出版局　2003
「和装本」とは、日本で古くから行われている製本の方法です。特別な道具がなくても、のりや糸など身近なもので作ることができます。かわいいノートを手づくりするのも楽しいですよ。

『豆本づくりのいろは　手で作る小さな本』
赤井都著　河出書房新社　2009
かわいらしい豆本。作るには少し根気がいりますが、作り出すとやみつきになります。一度挑戦してみませんか？

『偶然の装丁家』矢萩多聞著　晶文社　2014
学校になじめず、中学１年から学校に行かなくなった著者。10代は、１年のうち半分以上をインドで暮らす生活でした。デザインも絵も独学で、タイトルどおり偶然、本をデザインする装丁家になります。
装丁家をはじめ編集者や印刷所、製本所と多くの人が関わってできる１冊の本。その過程を知ると、本がこれまでとは少し違って見えてくるかもしれません。

クリスマス・お正月にむけて　つくる

★リース
『クリスマスリース　やさしく作れるリースでクリスマスを100倍楽しくする！』斎藤勝子制作・監修　辰巳出版　2003
リースの紀元は、古代エジプトと言われているそうです。本書では、やさしいリースの作り方が、写真・イラスト付きで説明されています。かんたんなお正月飾りも載っていますよ。

★お菓子
『クリスマスのお菓子』今田美奈子著　金の星社　1995
イギリスの「クリスマスプディング」やフランス生まれのケーキ「ブッシュ・ド・ノエル」といった 世界の伝統的なクリスマスのお菓子。作り方とあわせて、お菓子にまつわるエピソードや、クリスマスのお祝いのしかたも一緒に紹介されています。

★おせち
『お正月の手帖　2009年版』暮しの手帖社　2008
新年を迎える準備を特集した「別冊暮しの手帖」。おせちについては、作りやすい料理を集めた中国風や、和食の基本がわかる本格おせちなどが紹介されています。

『おせち 華やかな初春　祝・美・膳』白井操著　ひかりのくに　1990
伝統的なお重や現代風にアレンジしたおせちの作り方が載っています。あわせて紹介されているテーブルコーディネートの例は、とてもおしゃれです。

★飾り
モビールで部屋を飾ったり、マスキングテープを使ったラッピングや手づくりのカードを作るのも楽しいですね。

◎モビール
『北欧の切り紙 インテリア・モビール』Jens Funder-Nielsen著　田尻知子作品制作　池田書店　2008
『モビールでつづる365日　日々のできごとと年中行事モビールのつくり方』よしいいくえ著　誠文堂新光社　2012

◎マスキングテープ、カード
『マスキングテープでコラージュ　かわいい紙雑貨のつくり方』永岡綾著　エディシオン・ドゥ・パリ　2010
『マステで素敵にアレンジ 楽しいギフト&おもてなし』森珠美作品　メイツ出版　2016
『カードは手作りが楽しい！heart warming handmade card』井上由季子著　文化出版局　2003

果樹・野菜をつくる

『おいしく育てるはじめての家庭果樹』三輪正幸著　NHK出版　2013
ベランダや玄関先で、鉢植えのフルーツを育てることができます。ブルーベリーやユズなど14種の育て方が、写真や図でわかりやすく解説されています。ベランダで、もぎたての果物を食べることができるかも？！

『ニンジンの絵本』川城英夫編　農山漁村文化協会　2002
和風、洋風、中華、どんな料理にもよく使われるニンジン。そんなニンジンの魅力と秘密、そして育て方が紹介されています。ペットボトルで根の太る様子を観察する方法も。
本書は「そだててあそぼう」シリーズ105冊のうちの1冊。野菜のほかにも、イチゴやミカンなどの果物もありますよ。

『果物はどうして創られたか』梅谷献二・梶浦一郎共著　筑摩書房　1994
リンゴやブドウといった身近な果物のルーツや栽培技術など、あまり知られていない果物のお話が読みやすく書かれています。

職 人

『子どものためのニッポン手仕事図鑑』大牧圭吾監修　オークラ出版　2017
木工職人や食品サンプル職人、すずり職人といった普段見ることができない手仕事を紹介した図鑑。仕事で大変なこと・嬉しかったことなどのインタビューもあり、日本各地のさまざまな職人の世界や、その手仕事への心意気を知ることができます。

『やめるときも、すこやかなるときも』窪美澄著　集英社文庫　2019
家具職人の壱晴は、12月のある時期になると声が出なくなる。心の穴を1人抱えたまま生きていた壱晴だが、1人の女性と出会い…。2020年にドラマ化もされた小説。主人公の家具職人がつくる椅子を、実際に見たくなります。

4人の司書の今年の1冊

『君たちはどう生きるか』
吉野源三郎著 岩波文庫 1982

確か中高生のころ、図書館で見て何度か読んでみようと試みたのですが、本の古さとあまりの字の小ささに途中で挫折してしまった？のか、内容を全然覚えていなかったこの本。今年、同じ名前のジブリの映画が公開されるのを機に、改めて読ました。読んでみると、コペル君の気持ちには共感するところが多く、コペル君の経験に対する叔父さんの言葉には、「ああ、そうか」と気づかされたり、考えさせられたりすることがいくつもあって、あの頃もちゃんと読んだらよかったなあと思いました。読んだ人や読むタイミングによって、印象に残る場面や言葉が違ってくる作品かもしれません。ポプラポケット文庫や漫画版も読みやすくておすすめです。図書館にあります！　**片山**

『この気持ち　いったい何語だったらつうじるの？』
小林エリカ著　よりみちパン！セ　理論社　2009

今年の話題のひとつに ChatGPTがありますが、昨年から続いているロシアのウクライナ侵攻に加えパレスチナ問題も起こりました。誰もが平穏な生活を望みながら、どうして紛争や戦争が起こるのでしょうか。タイトルに魅かれて手にしたこの本は、世界に共通語があればお互いを理解しわかり合えるだろうという思いから創られたエスペラント語、語ることで伝えようとする沖縄戦の重み、翻訳で言葉を伝えることの難しさなど、著者の小林さんがご自身の経験や考えを語られている、言葉と戦争を考える本です。「言葉なんていらなくて、心がつうじたらいいのに」という一文に共感しつつ、言葉なしに心は通じないものなのか、心とはそもそも何なのかなど疑問が湧いてきました。AIが社会進出してきた今、言葉で伝えることの意味を考えた一冊でした。

三上

『続　窓ぎわのトットちゃん』
黒柳徹子著　講談社　2023

ウクライナのニュースが、いつの間にか特別なことでなくなり、日常のニュースの1つとして慣れてしまった、いやいや慣れてはいけない、と思い直すそんな1年でした。

ある時、42年ぶりに「トットちゃん」の続編が出るという新聞記事を見て、なぜ今？と驚きました。「ウクライナの子どもたちはどうしているのだろう」と思ったこと、自身の戦争体験を書き残しておきたいと考えたこと等が執筆のきっかけであることを知り、そのことがとても印象深かったので、今年の1冊に『続　窓ぎわのトットちゃん』を選びました。青森への疎開、お父さんの徴兵といった出来事について、子どもの目線で感じたことをシンプルに、時にユーモアあふれる文章で綴られたこの本は、平和への思いが強く伝わってきます。今が「新しい戦前」にならないことを心から祈ります。　**福永**

『三体』劉慈欣著
早川書房　2019

30年前、文化大革命で理不尽に父を殺され、自身も冷遇され、僻地の基地に閉じ込められた女性物理学者。そこで行われていた謎の実験。それが実は現在、世界各国で続く科学者の自殺の原因でもあった。その謎が解けたとき、人類には大きな危機が迫っていた…。　日本人もキーパーソンとして出てくるのですが、中国人の、問題を何百年にわたっても解決しようとするたくましさに痺れます。この一年、身の回りにも、日本にもいいニュースが見あたらなかった気がしましたが、しぶとくあちこちに希望の種をまいて、生き抜いていこうと思いました。同じ地球に生きる人類として、戦争なんかしている暇はないのです。

眞鍋

図書館クイズ解答

問１　②島を作った　清盛は港の防波堤となる人口の島（経ヶ島）を日本で初めて造成しました。

問２　①アツモリソウ（敦盛草）赤紫の袋状の花を平敦盛が着ていた母衣（ほろ）に見立てて名前が付けられました。
③クマガイソウ（熊谷草）花を源平合戦で敦盛を討った熊谷直実の母衣に見立てて名前が付けられました。

問３．「赤」平氏　「白」源氏「源平盛衰記」八島の戦い「扇の的」の話より　平氏は船先に美しい女性を立たせ、さおの先の扇の的を射るように挑発しました。このとき、的を射抜いたのが源氏についていた武士、那須与一でした。平氏の船には赤い旗がたなびいています。

問4.　③拝観料が高かった　芭蕉は1688年に須磨寺を訪れ、ふるさとの伊賀国上野（現・三重県伊賀市）に送った手紙「芭蕉筆猿雖宛書簡」で「須磨寺のさびしさ国を閉じたるばかりに候。蝉折・こま笛、料金十匹見るまでもなし」とこぼしていました。拝観料は今の金額で約3,000円！現在の拝観料は無料ですが、当時災害のために復興資金が必要で「青葉の笛」の拝観料を収入源としていたようです。『兵庫ふるさと散歩・源平合戦ゆめのあと」神戸新聞社編　1985

問５　4.カニ　『平家蟹』日本近海、主に瀬戸内で見られる、甲羅は約2cm、あしを伸ばしても10cmくらいのあまり大きくないカニです。甲羅に人の顔のような模様の隆起があり、「平家の亡霊が乗り移った」という伝説があります。また同様に平家の女官が幼い安徳天皇に「波の下にも都がございます」と海に身を投げ出す際に竜宮城に導くために鮮やかな鯛の姿になったといわれる「連子鯛」もいます。

図書館は年末は27日まで、年始は9日から開館です。
冬休み貸出実施中。
返却日は10日（水）です。
10冊借りられます。
冬休みたくさん借りて、
ゴールドカード、プラチナカードを狙ってみては？